

第 5 回国体委員会開催

3 月 16 日 (火) に第 5 回国民体育大会委員会を開催しましたので、その内容を抜粋してお知らせします。

●第 59 回秋季大会におけるクレ射撃競技会場及び日程

第 59 回秋季大会クレ射撃競技会については、10 月 24 日から 26 日までの 3 日間、埼玉県長瀬(ながとろ)総合射撃場で開催されることが報告、了承されました。

大会マスコット「コバトン」→



●ドーピング・コントロール関係

・国体ドーピング検査選手必携書の改訂

禁止物質の治療目的使用の国際基準 (TUE) が新たにスタートします。国内での運用方法については、現在、JADA(日本アンチ・ドーピング機構)を中心として検討がされており、確定次第、国体ドーピング・コントロール規程を改訂することになります。これにより、第 59 回夏秋季大会参加選手用に作成する必携書の内容も改訂する予定です。

・平成 16 年度の実施計画

検査方針と検体数は、下記の通り了承されました。

(検査方針)

- ① 検査は世界アンチ・ドーピング規程に準拠し、競技会検査と競技外検査を並行して実施する。
- ② 検査では、全競技者が対象となり得る。
- ③ 検査対象については、医事部会において決定する。
- ④ 検査は各季開会式前日から閉会式当日までの間で実施する。

(検体数)

50～100 検体

＊検査はスポーツ振興くじ(toto)の助成を受けているため、平成 16 年度の助成額が決まった時点で具体的な検体数を決定することで了承されました。

(その他)

平成 16 年度より、競技外検査においては、現状の「センター方式」(検査対象者が所定の検査所へ集合)と併せて、世界規程に則った、より標準的な検査方式(検査員が検査対象者のトレーニング会場あるいは宿舎を訪れ、検査を行う)の実施を検討していることが報告されました。

国体医事部会 福林部会長のコメント

本年度は、初めての実施でしたが、関係の皆様の多大なご協力により、予定通り 50 検体での実施ができましたことを、深く感謝いたします。関係の皆様には、16 年度においても引き続き啓発活動へのご協力をよろしくお願いいたします。

●国体改革 2003「参加制限の撤廃」について

現在、本会と当該競技団体で協議し参加制限の撤廃に向けて調整をしている状況について報告があり、了承されました。

●プロジェクト報告 下記2つのプロジェクトについて進捗状況が報告されました。

○国体改革2003対応プロジェクト（座長：荒川委員）

これまで3回開催しました。検討項目のなかで、「所属都道府県の統一」と「ふるさと選手制度」については、来年度早々には本委員会に提案できるよう取り進めていることと、「中学3年生の参加競技の拡充」及び「種別の年齢区分の見直し」については、競技団体へアンケートを実施しており、今後関係機関・団体との調整を行いながら実現に向け取り進めていくことが報告されました。

○国体の今後のあり方プロジェクト（座長：杉山委員）

これまで3回開催していますが、現時点では具体的に報告できるまでには至っていません。本年12月には中間まとめを提示し、来年には提言という形で取りまとめができるよう進めていく旨、報告がありました。

●国体改革2003における「大会規模の適正化」について

「現行の参加枠数約3万人の15%(4,500人)程度削減」することについては、参加40競技団体のうち35団体とは「合意」し、5団体とは「未合意」となっていますが、その進捗状況について報告されました。未合意の団体については、本年度中に合意ができない事態も予想されることから、その場合の対応は日比野委員長と杉山委員に一任することが了承されました。なお先日開催された理事会では、安西会長と日比野委員長に対応が一任されている旨報告されました。

また、合意した団体のうち、下記6団体が、削減後の参加人員による実施大会としている平成20年第63回大会よりも先行して実施することが決定しました。

平成17年第60回大会から：スケート

平成18年第61回大会から：テニス、卓球、バドミントン、ライフル射撃、ゴルフ

佐藤福島県知事と安西会長が対談～木原光知子さん、川合俊一さんを交えて～

3月11日、日本スポーツマスターズ2004大会の開催地である福島県の佐藤知事が来会し、本会安西会長と大会シンボルメンバーの一員である木原光知子さん、川合俊一さんを交えて、大会に向けての抱負などを語り合いました。

福島県では、生涯スポーツのより一層の普及・振興を図るとともに、生きがいのある社会の形成や健全な心身の維持向上を図るため、スポーツ愛好者の中で競技志向の高いマスターズ世代を対象とした日本スポーツマスターズ2004大会を本年9月に開催します。

約50分に渡り行われた対談ではスポーツ談義に花が咲き、笑顔がこぼれる中、大会の成功に向けて引き続き取り組んでいくことを話し合いました。



↑写真左より

木原光知子さん、佐藤知事、安西会長、川合俊一さん

＊対談の内容は、3月28日の福島民報・福島民友に掲載される予定です。